

平成 2 4 年度行政評価（外部評価） 議事録

議 事 概 要	
会議の名称	平成 2 4 年度行政評価（外部評価）
開催日時	平成 2 4 年 7 月 2 8 日（土）午後 1 時から午後 2 時 1 5 分まで
開催場所	市役所西庁舎 3 階 研修室
出席者氏名	委員 和泉 潤 委員 小川 辰男 委員 中島 美幸 委員 杉本 孝司 委員 太田 孝夫 委員 中村 佐仔子 委員 佐藤 長男 業務担当課 福祉部長 伊藤 泉 福祉部次長 三浦 肇 子育て支援課長 福岡 隆也 子育て支援課課長補佐 山端 剛史 子育て支援課児童係長 水野 真樹 事務局 企画部長 水野 正志 企画政策課長 加藤 正純 企画政策課課長補佐 飯島 淳 同担当 寺島 卓哉
傍聴者人数	1 1 名
会議の公開・非公開	公開
審議の概要	出産祝金支給事業について
問 合 先	長久手市企画部企画政策課 0 5 6 1 - 5 6 - 0 6 0 0
備 考	

業務担当課 委員	<p><平成 2 4 年度長久手市行政評価（外部評価）資料に沿って説明></p> <p>出生率の低下は、生産年齢人口減少につながり、国としても重要な問題である。また、家庭で、子どもが一人増えれば、精神的、経済的な負担は大きくなる。</p> <p>昭和 2 0 年代の後半では、子ども人口は総人口の 3 分の 1、高度経済成長期には 4 分の 1、今では 7. 5 から 8 分の 1 と、日本全体として子どもの数が減っている中、3 人目の子どもを出生した家庭に、「お祝い」として支給することは継続してほしい。</p> <p>長久手市で生まれた 3 人目以降の子どもは平成 2 3 年度 6 3 人なのか。</p>
-----------------	--

業務担当課	子育て支援課に、出産祝金の申請があったものが63件である。
委員	<p>支給金額20万円という額は、他市町と比べても高額である。また、経済的安定性を目的とするなら、1人目、2人目でも、経済的な困窮という点では変わらないのではないか。</p> <p>平成17年の国民生活白書では、子どもの数と所得との関係は不明確としながら、400万円以下の所得の世帯は、子どもがいない割合が高い。世帯所得が低いために、第1子をもうけられない家庭もいるかもしれない。また、高い所得でありながら、受給している世帯もあるかもしれない。</p> <p>対象世帯などの所得の統計などはとっているか。</p>
業務担当課	<p>現時点で対象世帯などの所得の統計などはとっていない。制度スタート時から、所得制限なしに3人目以降に支給している。今回いただいた意見を参考に、他の事業への予算の配分など検討したい。</p>
委員	<p>ただ祝金ということであればよいが、評価票にある子育て家庭の生活の安定と負担の緩和という目的からすると、所得制限もないことは、公平性に関して市民に説明がしっかりできていないのではないか。</p>
業務担当課	<p>祝金という性格を持って事業を実施している。</p>
委員	<p>祝金の性格を持っているならば、事業目的をそのようにしたほうがよいのではないか。また、そのような目的であればそれを導入した時の背景はどのようであったか。</p> <p>総合評価Cということは、事業をやめたいということか。</p>
業務担当課	<p>事業目的の記述についてはそのように変更したい。子育て施策について、保育所の待機児童対策など子育て関係の予算が増えているので、そちらに予算を割くため廃止も含めて、減額など考えていきたい。</p>
委員	<p>児童手当の所得制限はいくらか。</p>
業務担当課	<p>扶養の数等にもよるが、扶養親族が3人の場合総収入がおおよそ960万円を超えると5,000円となる。所得制限の適応は平成24年6月からとなる。</p>
委員	<p>子育て世代の生活の安定について、子どもを預けて、両親が働いて安定化させることも方法の一つではないかと思う。そのような施設を作ることが有効なのではないか。</p>

業務担当課	<p>国の子ども子育てビジョンでも委員の発言のような内容が言及されている。長久手市の待機児童は現在43人で、2歳未満の児童である。平成22年、国が初めて2歳児未満の保育の必要性を閣議決定し、長久手市でも家庭的保育事業として、保育士の資格を持った方がアパートなどの一室を使用した2歳児未満の保育を、今年9月から実施する予定であり、そちらに予算も配分していきたい。</p> <p>今後、これらの予算も確保しつつ、出産祝金の見直しを行っていきたい。</p>
委員	<p>他市町がやめたから、長久手市でもやめるということではないと感じた。では、どういうところが問題で、また、今後どういったことをしていくか整理する必要がある。</p>
業務担当課	<p>平成19年から出産祝金支給事業を実施しているが、増加する待機児童の対策が問題となっていており、若い夫婦の世帯が安心して出産できる環境を整える必要がある。それと出産祝金支給事業の「祝金」としての性格を考えて、見直しを実施していきたい。</p>
委員	<p>そのような子育て家庭のニーズは、次世代育成支援後期行動計画などの計画の中の調査で浮かび上がっているのか。平たく言えば、就学前の児童を持つ家庭の母親がどのようなニーズを持っているか調査をしているか。</p>
業務担当課	<p>次世代育成支援後期行動計画では、ニーズ調査を実施しており、就学前の児童を持つ家庭の母親は就労意欲が高いという結果が出ている。また、費用負担の軽減というニーズも出てきている。</p>
委員	<p>費用負担とは、具体的にどこにか。</p>
業務担当課	<p>保育料といったもの。</p>
委員	<p>すべての子どもが対象となるような出産などに関するサービスには、出産祝金以外でどのようなものがあるか。</p>
業務担当課	<p>児童手当、子育て世帯優待事業として協力店舗で割引サービスが受けられる「はぐみんカード」事業、市民課で絵本をプレゼントする事業、中学生までの医療費を助成し、通院入院の個人負担を無料化する子ども医療費の助成事業などがある。</p>
委員	<p>成果を支給金額とするのはおかしいのではないかと。目的やねらいに対して、どの程度の効果が達成されたかということではないか。制度の継続の可否を決定するのはだれか。</p>

業務担当課	<p>成果としては、生まれた3人目以降の子どもの数イコール祝金の支給額として考えている。</p> <p>制度の継続の可否の決定は市長が行い、1月の予算査定の中で決定していく。</p>
委員	<p>成果としては、出産祝金がどれだけ第3子以降の出生に寄与したかということによいか。</p> <p>また、予算折衝の提案をしていくのは、担当課か。</p>
業務担当課	<p>成果については、そのように考える。</p> <p>提案は担当課から行う。</p>
委員	<p>事務局として、事業をどういう方向にもっていきたいか読めない。</p>
業務担当課	<p>長久手市では、待機児童が増加しており、新しい保育園の建設や、既存の保育園の修繕も控えている。家庭的保育事業についても、愛知県下で3市しか実施していないので、今後市でも効果を検証していきたい。出産祝金を含め、これらの事業を整理して効果的な事業展開となるよう、予算要求に向け意思決定していきたい。</p>
委員	<p>業務の目的の再考も含めた改善を実施していくという理解でよいか。</p>
委員	<p>業務の目的が明確にされていないことが問題なのではないか。市児童福祉施策の中でどういう目的を持っていくか定めると、市民にもわかりやすくなる。</p> <p>祝金事業をやめている団体もある。横並びがよいというわけではないが、長久手と状況が似ている部分はあるので、改善を考える上で、それを把握しておいた方がよい。</p> <p>事業の成果に関わってくるところであるが、祝金をもらった人がどのように感じているか、フォローアップはしているか。</p>
業務担当課	<p>フォローアップはしていない。</p>
委員	<p>事業の効果を把握するためにも、フォローアップは必要である。</p>
委員	<p>事業の目的がしっかり定まっていないうように感じる。</p> <p>他の自治体では、第何子に関わらず祝金を出している事例、0歳児に毎月出している事例、子どもが生まれて引っ越した場合、家賃の差額を補助する事例などさまざま。</p> <p>出産を地域を挙げて祝うことは重要であるが、予算に透明性を持たせることが重要である。</p>

委員	<p>事業を開始した時の目的もあるし、成果もあると思う。ただし、問題があつて、それをどう改善していくか説明に矛盾がないよう、まとめておくことが必要である。</p> <p>また、資料について、議論したことが記述されておらず、資料の記述の内容と説明した内容にひらきがあるように感じた。</p>
委員	<p>子育ては本当に大変である。そのような人たちを励ます意味で、また、社会全体で応援していく姿勢を示す意味でも、祝金という制度は続けてほしい。</p>
委員	<p>既に祝金をもらった人とこれからもらう人の間の公平性の観点から、廃止するにも緩和策が必要なのではないか。</p> <p>今後、福祉施策全体のバランスを見ながら、次年度の予算を決めていくことになると思うが、住民の心情も大切にしながら、その時の経費ばかりに目を向けずに進めて行ってほしい。</p> <p>市の福祉全体のコンセプトが経費削減ではよくないと思う。</p>
業務担当課	<p>委員からの意見を参考に、事務局として意見を整理していきたいと思う。</p>
委員	<p>今後、好むと好まざるとにかかわらず、女性は働くことが当たり前の状況になっていくと推測されている。そのような状況の中、子育て支援施策を考えていく上で、制度を変えるには急に変えてはいけないこともあるが、変えるべきところはしっかり対応して行ってほしい。</p> <p>少子化が進めば、子育て専門の母親が孤立しやすい状況は増えてくると思う。その世帯を支援する仕組みを考えて行ってほしい。</p>
委員	<p>待機児童が増えているから施設が必要となる。そのための予算を他の事業から持ってくるとして、福祉部の予算の中でやりくりしないといけないのか。福祉部以外の予算から持ってこれないのか。</p>
業務担当課	<p>福祉部以外の予算から調整することもできる。</p>
委員	<p>そうであれば、制度のよしあしによっては、待機児童の施設建設と祝金の予算をつけることができるのではないか。最後は担当課の意気込みということではないか。</p>
業務担当課	<p>国や県からの権限移譲などにより、さまざまな業務が増加しており、それに合わせて経費も増加している。限られた枠の中で、効果的に事業を実施できるよう、調整を行いながら、児童福祉を進めていきたい。</p>

委員	<p>市の予算のうち、義務的に支出しなければならない部分を除いた自由に使える部分を、どのように使っていくかを市長の判断で決定する。その中で、必要な見直しは行っていく必要がある。</p>
委員	<p>出産祝金は、市の予算の民生費 5 4 億円の中に入っており、これまでやってきたことを検証し、これからどのように進めていくかを決めていく。また、施策の優先度も検討していると思う。そのような検証を行い、担当課として、出産祝金をどうしていくかを考えていると理解している。</p> <p>市長が変わったから、実施を見直すということにならないようにしていただきたい。</p>
委員	<p>市長が決めるということだが、やはり事務局がしっかり検証して、意図を伝えることが重要である。</p>
委員	<p>これから 3 人目を産む人には申し訳ないが、1 人目、2 人目を産みたいと思っている人が安心するような環境作りが重要であると思う。</p>
委員	<p>制度としてはいいものであるという意見があったが、より事業として成功させていくことと、市民への説明責任を果たすことが重要である。</p>